

◆ 次の文を読んで、課題□、△のそれぞれに取り組みなさい。

## ひっかかり続けること

自然と人間社会のあいだを歩き来して、自然環境を肌で学ぶ。そうすれば、環境に対する感覚がいわば鋭敏になる。自然環境に何か変なところがあると、なにか違和感を覚える。

大切なことは、その違和感をずっと忘れないことである。

私には三十年以上かかって、やっと疑問が解けたという経験がある。二十七才のとき、解剖学教室に入って初めての学会があり、新潟に行った。ちょうど五月で、虫が出てくるころだったので、学会をさぼって佐渡島に旅行に出かけた。ドンデン山という高さが90メートルぐらいの山に登りながら、虫をとった。虫をとりながら登って、頂上につくと、頂上には草原が開けていた。このぐらいの高さの山では、登るほどに林が深くなり、頂上は木でおおわれているはずである。なぜ頂上がはげているのか、疑問に思った。そのときは答えがわからないままに下山した。

三十年後、また佐渡を訪ねる機会があった。そのとき佐渡博物館に立ち寄ると、大正時代にとられた、佐渡の風景のアルバムがあった。ページをめくっていくと、ドンデン山の頂上は、かつて牧場だったのである。

いまなら、草原にアセビが多いことに気づき、以前は牧場があっ

たのだなとすぐにわかったと思う。アセビは漢字で「馬酔木」と書くところ、馬や牛は酔うので食べない。だから馬や牛がいるところでは、アセビばかりが残る。しかし、ドンデン山に登ったとき、若かった私には、そういう常識がなかった。なぜ頂上がはげているのか、疑問に思っただけである。ただその疑問は、長年心の底に残っていた。だから、三十年後に牛馬の写真を見た瞬間に、その疑問が解けたのである。

べつにどうという話ではない。しかし私の仕事の原点は、こうしたさまざまな違和感をかかえ続けたことにあると思っている。たまに、「なぜそんなにいろいろなことを考えるのですか。」ときかれることがある。

「疑問を忘れないでいると、年中考えるしかないじゃないですか。」そう答える。

最近の学生を見ていて思うのは、ひっかかることがあっても、それを頭の中で「丸めてしまおう」傾向が強いことである。「丸める」とは、疑問に思ったことを、それ以上悩まなくてすむように、とりあえず自分のなかでなだめてしまふことである。「山の頂上ならはげていることも当然あるだろう。」そう答えを出して、納得してしまえば、それ以降疑問は生じない。その疑問にわずらわされることがなくなるから、気分が楽になる。

社会生活を営むうえでは、疑問を丸めることは重要である。相手のやることに疑問を抱き続け、「それはおかしい」といちいち指摘すれば、人間関係はぎくしゃくして、けんかが絶えないことになる。だからむしろ、話を丸めるくせをつけるほうが大切である。しかし、

自然と向き合うときに、疑問を丸めてしまったら、自然をきちんと知ることができない。

疑問をいだき続けること、つまりわかるまでこだわることは、自然を知るときの基本的な態度である。自然を知ることが職業の科学者にとつては、これはあまりにも当然のことであろう。

大学の教室で、学生に質問した。

「コップの水に、インクを一滴、たらしたとする。しばらくすると、インクが消える。なぜだと思うか」

学生が答えた。

①

「丸める」とは、このことである。「そういうものだ」と思っ  
てしまえば、疑問は生じない。本人は楽だが、楽をすれば、なにも考  
えない。なにも学ばないという結果になる。

(養老孟司『いちばん大事なこと―養老教授の環境論』(集英社新書))

なお、本文の一部を省略したところ、

漢字をひらがなにかえたところがあります。

(注)

※1 鋭敏 物事をするどく感じとること

※2 違和感 周りのものとの関係がちぐはぐで、しっくりしないこと

※3 学会 それぞれの学問分野ごとに研究者を中心に運営される団体

## 課題一

①で学生はどのような答えをしたと考えられるか。~~~部分を参考にして、あなたの考える答えを十五字以上二十五字以内で書きなさい。ただし、句読点も一まず使います。

## 課題二

あなたにとって、「疑問を丸めること」とは何でしょうか。このことについて、自分の経験をもとに、あなたが感じたり考えたりしたことを三百六十字以上四百四十文字以内で書きなさい。ただし、句読点も一まず使います。